

本誌への投稿論文はすべて編集会議で採択を審議されるため、呼吸器外科医の私も多くの消化器外科などの論文に接することとなります。いずれの領域においても内視鏡手術の拡大は急速であり、すでに多くが標準術式化していることを感じます。肺癌の手術は血流が豊富で壁の脆い肺動脈を剥離する必要があったり、術野の展開が多かったりするなど内視鏡手術に必ずしも有利なことばかりではありませんが、本邦の肺癌手術のうち胸腔鏡下手術は全体の60%を占めるに至り、新たな「標準手術」であります。しかし、その適応や手術方法は全国的に完全に統一されてはおりません。いずれの領域でも早期癌の割合は一層増加すると推測され、低侵襲に根治させる方法を進化させていくのは外科医の任務であります。そのためには日常診療を行いつつ、同時に科学的な検証を行なうことが合理的と思われます。

最近、外科系学会においてNational Clinical Database (NCD)の登録が一斉に開始されました。手術の実施状況や安全性を調査するためにはNCDを利用して、疾患名、術式、併存疾患、合併症率などに関する調査項目を解析することによって可能となります。同時に各施設や専門医個人が自らの治療成績を全国データと比較することにより、各人が症例リスクに応じた治療成績を把握するなど質の高い医療を目指した取り組みが期待できます。今後は手術の前向き登録データを用いた大規模な臨床研究でエビデンスを構築し、社会に情報発信していくことも一般化されるでしょう。

呼吸器領域ではCTの普及により、X線写真主体の時代と比較して発見される肺癌が小型化してきたことは周知の事実であり、このことが胸腔鏡手術が普及する大きな推進力となりました。このように早期診断法の発展も我々と無縁ではなく、画像や生検組織の解析により腫瘍の悪性度の評価が可能となれば縮小手術で根治しうる症例の選別も正確となりましょう。今後の内視鏡外科の発展には画像診断や分子病理学が伴走することが一層必要と考えます。

新たな低侵襲治療を発展させる鍵となるのは医用工学、伴走研究、大規模データベース、専門医プログラムの改善などであり、これらを礎として技術と知識を有する人材を育てていくことが肝要です。本誌に内視鏡外科に関する包括的な原著論文から症例報告、手技の工夫などを投稿いただき、学会全体で人材育成に取り組むことを願う次第であります。

(池田徳彦)

日本内視鏡外科学会雑誌

(第19巻 第1号) 2014年1月15日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

(1部) 定価: 本体 2,800 円 + 税 * 会員には毎号送付されます。

2014年 年間購読料: 冊子版 17,490 円, 電子版/個人 17,490 円, 電子版/共有 20,100 円, 冊子 + 電子版/個人 20,490 円, 冊子 + 電子版/共有 23,100 円 (税込) (配送料: 医学書院負担) * 会員には冊子版が毎号送付され、学会ホームページから電子版が閲覧できます。※上記は2014年3月末までにご注文いただいた場合の年間購読料です (2014年3月ご購入開始分まで適用)。

編集・発行: 日本内視鏡外科学会 (代表: 北野正剛)

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-2 大同生命霞が関ビル 18 階

日本コンベンションサービス株式会社内

☎ 03-3503-5917 Fax 03-3508-1302 E-mail: jses@convention.co.jp (担当: 野上)

http://www.jses.or.jp

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 18 F-1-4-2 Kasumigaseki, Chiyodaku

Tokyo, 100-0013, Japan ©2014, Printed in Japan

発売: 株式会社医学書院 (代表: 金原 優) (本誌担当: 水野, 安部) http://www.igaku-shoin.co.jp/

http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/jses/

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎ 03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802 / E-mail: jses@igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659 (Fax 03-3815-7804)

印刷所 横山印刷(株) ☎ 03-3622-6161 (Fax 03-3625-1591)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎ 03-3817-8036 (Fax 03-3817-8044)

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

●症例報告

腹腔鏡下に摘出した後腹膜気管支原性嚢胞の 1 例前平博充・他 静岡県立静岡がんセンター胃外科
Upside down stomach を呈した食道裂孔ヘルニアに

対して単孔式腹腔鏡手術を施行した 1 例久保田ちひろ・他 KKR 札幌医療センター斗南病院外科
腹腔鏡下手術で根治した S 状結腸間膜内ヘルニアの 1 例藤本崇聡・他 山口赤十字病院外科
腹腔鏡下虫垂切除術後、落下ステイプル針によりイレウスをきたした 1 例丸山 傑・他 竹田綜合病院外科
成人胃軸捻転症に対し腹腔鏡下胃固定術を施行した 1 例辻 敏克・他 富山赤十字病院外科
腹腔鏡下腹会陰式直腸切断術・前立腺合併切除を施行し根治切除が得られた

前立腺浸潤を伴う直腸癌の 1 例中西良太・他 松山赤十字病院外科

他数編の掲載を予定、但し誌面の都合により変更がございます。ご諒承ください。